

村長就任 あいさつ

東秩父村長 足立 理助



このたび、村民皆さま方のご信任をいただき、村政の重責を担わせていただくことになりました。

今、村長という職務に謙虚な心を持ち、皆さま方から与えられました信頼に感謝をし、先人の方たちが払ってきたご努力を心に留めながら、皆さま方のご期待に応えるべく誠心誠意、その任にあたる所存でありますので、皆さま方の一層のご協力、ご鞭撻の程をお願い申し上げます。

私は、今回の選挙では、行政を刷新し企業感覚をもって、行政改革をし、少子高齢化対策や子どもたちからお年寄りまで、安心して暮らせる村づくりをしたいと述べてまいりました。

また、多くの村民の声は「行政は困った人への手厚い配慮」、介護保険や村民のおよそ1000人の人たちが加入している国民健康保険は広域行政への推進を図り、少しでも村民の負担軽減に努め、皆さま方のご協力を仰ぎながら、村民から信頼される行政の推進をロードマップに沿って進めてまいります。

これまで（私を含め）15代の村長が就任されてまいりました。高度成長期には、繁栄の高まりは平和な時に行われてきましたが、バブルがはじけた20年間の村議会議員としての歩みは、人々の暮らしに大変厳しい風が吹き荒れるなか、私なりに声を拾い集め、比企広域行政とのすき間を照らし合わせる活動でした。

このような時代背景にもかかわらず、この小さな村が埼玉県「借金の少ない村」で来られたのは、指導者の技量や洞察力だけではなく、先人の方たちが誠実に務めあげてきたからだと思えます。そして、これからもそうでなくてはなりません。

しかしながら、今日の一人ひとりの暮らしは危機的状況にあることが、家々を回るたびに寄せられた切実な声でした。それは、私たちが困難な選択を怠り、新しい時代に備えることが出来なかつた結果でもあります。これらの難問は深刻で、しかも現実のものであり、短期間では対処できませんが、それを解決しなくてはなりません。それが使命と考えます。

今、私たちは希望と目的をもって立ち上がり、多くの皆さまが賢い選択をし、より良い政治を選びました。これからは、東秩父村と広域行政のなかで、生活や経済の流れをお互いに分かち合い、次につなぐ目標をしっかりと打ち立て、乗り越えていかなくてはなりません。

1300年の歴史に育まれた、和紙の里の一人ひとりが、子どもたちに希望を抱かせ、健康で元気で明るく過ごすためにも全力で頑張つてまいります。皆さま方の一層のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。就任のあいさつといたします。